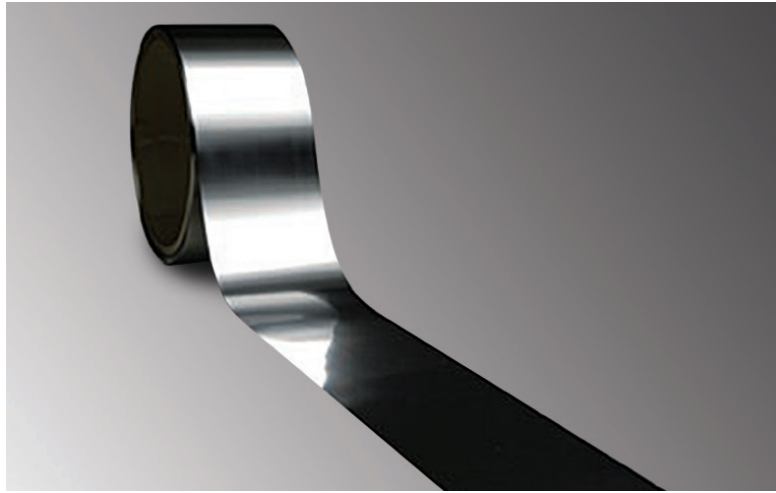


エスメタル株式会社



ステンレス鋼帯のイメージ



(左より)
営業管理部 課長 宇田川 孝弘 様
総務部 営業管理部 部長 新川 剛司 様

会社概要

- 本社所在地:〒110-0005 東京都台東区上野1-16-17
- 従業員数:30名
- 事業内容:ステンレスを主とする金属材料全般の卸売り及び電磁製品卸売り並びに各種シンク製品の販売
- URL:<http://www.smetal.co.jp/>

残業時間が週平均で約2時間減少

テレワークの形態は、営業職12名を対象にしたモバイル勤務です。顧客先や移動時間を利用した資料、報告書の作成が可能となり、経営課題でもあった移動時間のロスを大幅に減らすことができました。モバイル勤務を効果的に活用している社員の残業時間が週平均で2時間ほど減少しました。これまでは、遠方のお客様から頂いたご要望を手書きでメモし、わざわざ会社に戻ってメモを元にした報告書を作成し、メールでお客様にご連絡をしていた一連の対応がすべて現場や移動中の車内で行えるようになりました。また、事前に製品カタログをモバイル端末に保存しておき、顧客先での効果的な営業活動に活用する例も見られる等、モバイル勤務の特徴と強みを活かし、成果を挙げる社員も出てきました。事前にグループウェアを導入し、クラウド環境や情報共有を体験していたことが奏功したと思われる。

順応できない社員のフォローと社員の在宅勤務が課題

今後は、社内システムを刷新し、在庫管理や受注管理との連携を図っていく予定です。外出先でもモバイル端末からアクセスでき、その場で在庫確認や受注業務を行え、より戦略的な営業活動が可能となります。一方で、モバイル端末や勤務形態に順応できない社員もいます。積極的に活用している社員との格差が生じることが今後の課題と言えます。場合によっては、積極的に活用を促す等、管理職のリーダーシップが必要になると思われる。また、営業部の社員が病気で療養をすることになり、これを機に在宅勤務を実施しようと考えています。モバイル端末と携帯電話を支給し、病気療養の期間、一定の業務を自宅で行ってもらう予定です。良いモデルケースにしたいと思っています。

経営課題

移動時間を有効に使い業務効率を大幅に向上

解決ポイント

現場や車内で報告書を作成し、残業を削減 モバイル端末での製品訴求等、効果的な営業も実現

移動時間の多さによる業務効率の悪さを解消したい

当社は、ステンレス等、金属材料全般の卸売りを主な業務としています。特に1943年の創業以来取り扱っているステンレス鋼帯は、自動車関連製品やOA機器、デジタルカメラ、携帯電話等、生活に溶け込んだ様々な製品に活用されています。

社員のほとんどが営業職で外出が頻繁にあります。しかも、北は秋田から南は九州まで遠方のお客様が多いにもかかわらず、報告書等の作成で外出先から帰社するため、移動時間のロスが膨大なものになっていました。さらに、社員が40代、50代中心ということで、将来における「介護離職」の懸念がある点、また属人的な業務が多いため、休業者が出ると業務が滞るケースが見られる点が経営課題として顕在化していました。

事前にグループウェアでクラウド環境を体験

これを解決する手段としてテレワークの導入を決めました。その際、公益財団法人東京しごと財団で行っているテレワーク導入時の環境構築に利用できる助成金を活用しました。テレワーク導入以前の1年前から、社員同

士の情報共有に慣れてもらうため、グループウェアを入れていました。実は、社内のサーバーでスケジュール管理アプリによる情報共有を試みたことがあったのですが、スケジュールを入れない社員が多い状態でした。ただ「使ってください」とお願いしても定着しなかったという経験を踏まえ、グループウェアでは顧客情報や社員全員の携帯番号等の必要情報を入れておくことで、誰もがアクセスせざるを得ない工夫を施しました。

テレワーク導入にあたり社員に支給した機器は、タブレット機能を持つノートパソコンを3台、モバイル端末を2台です。無料のクラウド管理システム*もそれぞれのモバイル端末に設定しました。あらかじめ顧客の資料をアップしておくことで、社員が顧客先で必要な情報にアクセスできるようにしました。

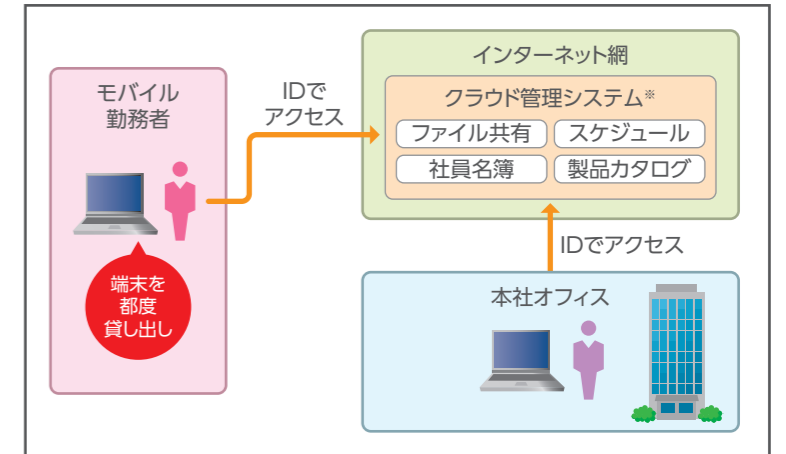
セキュリティ対策に関しては、ノートパソコンとモバイル端末を定期的に回収し、有線接続にてOSやセキュリティソフトのアップデートを行っています。また、情報の持ち出しにおいてはセキュリティUSBメモリーやクラウド管理システム*を活用し、モバイル端末にはログインパスワードを設定。情報漏洩等の事故を未然に防げるよう配慮しています。



外出先で利用するモバイル端末



モバイル勤務中の業務イメージ



経営課題

- 営業社員の外出が多く移動距離も長い場合、莫大な時間ロスが発生
- 顧客先から帰社し、パソコンで報告書を作成する効率の悪さ
- 社員の年齢が40、50代に偏り、将来介護離職に繋がる懸念
- 属人的な業務が多く、当人が休業すると業務が滞る

導入概要

- 導入1年前よりグループウェアを採用し、テレワーク化に慣れておく段階的な導入を実施
- タブレット機能を持つノートパソコンを3台、モバイル端末を2台の導入
- クラウド管理システム*をそれぞれの端末に設定

導入効果

- 現場や移動時間を利用した作業が可能となり移動時間のロスを軽減
- モバイル勤務を活用している社員の週平均残業時間が約2時間減少
- 製品カタログをモバイル端末に保存し顧客先での効果的な営業を実現

テレワーク導入企業からのアドバイス



- ◆将来を想定して環境を整備
当社では、グループウェアやクラウド管理システム*の導入をテレワークの皮切りにしましたが、社内ネットワークとの連携を想定していませんでした。その反省を踏まえ、将来を想定した環境整備を行うことをお勧めします。
- ◆事前にテレワークをイメージできる環境を
当社は、テレワーク導入前にまずグループウェアを使ってもらい、情報共有やクラウド環境に慣れてもらいました。事前にテレワークをイメージできる環境を作ることが大切です。
- ◆管理職のリーダーシップが必要
当社は全社員にモバイル端末を支給するのではなく共有としました。結果、社員同士が遠慮する等、活用に格差が生じました。管理職がリーダーシップを発揮して活用を勧めることも必要だと感じました。

■クラウドとは：インターネット上にデータを保存する使い方、サービスのこと。
*クラウド管理システム：クラウドで提供される業務管理サービスやチャットサービスなどの総称。